

ついに完成!

TJオリジナルラケットバッグ

その全貌がここに!

**限定200本
販売開始!**

テニスジャーナルがヨネックス開発陣の協力を得、1年5カ月をかけて企画・製作したオリジナルラケットバッグがついに完成の日を迎え、いまここにその全貌が明らかになる。コンセプト&スペックについて検討を重ね、製作コストや可能 or 不可能との戦いを経てできあがった「なにからなにまでオリジナル」のラケットバッグ……、限定200本の頒布である。



ブランド名: J.LTD DIRECTION
企画: テニスジャーナル編集部
製作: ヨネックス株式会社
写真: 笹岡 剛

【企画コンセプト】

現在の市場にあるラケットバッグは、メーカーロゴが大きくプリントされた派手なものが多く、大人のプレイヤーが持ち歩くにはちょっと気恥ずかしさがある。またほとんどが、背負うと「カタツムリ型」になってスマートではない。カッコよく見えるものがあったとしても、たいがい大きなもので、逆に収納量の少ないものは安っぽく見えてしまう。いずれにしてもスーツ姿ではばかられるものばかり。そこでテニスジャーナル編集部では「もっとシンプルで、それなりの年齢の人が持っていてスマートに見えるラケットバッグを作ってしまう」という企画を立てた。大人が持つにふさわしいラケットバッグの姿とは何か? について検討を重ね、あらゆるセッティングを「使う人の身になって」組み上げたハイクオリティなラケットバッグ。限定販売数は200本。価格は¥18,900(消費税込み)。

14年前の波紋 あれからラケバが変わった

TJ編集部では14年前、オリジナルラケットバッグを作ったことがある。ラケットバッグ特集をしたとき、みんなただの「ラケットを入れるだけの袋」で、形も同じようで、違っただけの袋。ゴクラいで、じつにつまらなかつた。だから個人的で本当に便利なバッグを自分で作ってしまえ……と思った。

そしてできたのが、ポケット満載の多機能ラケバで、縦置き自立型バッグだった。せっかくなので読者にも使ってほしい……そんな気持ちから頒布したところ、市販メーカーのバッグの約2倍もする価格なのに、500本もの申

し込みがあった。

これがきっかけとなって、各メーカーが多機能バッグを開発し始め、現在のようにならぬ多彩なスタイルのラケバが登場したのだ。昔のバッグを覚えてらっしゃる方には、御納得いただけるはずである。

いまふたたび一石を投じる 脱「カタツムリ」スタイル

ラケバとしては無茶な価格……、それでも500人が「欲しい」と買ってくれた。そして「今でも使っている」という便りも届くのだ。

これによって我々は「みんないいものを欲しがっている。本当に良いと認められれば、たとえ高価でも買ってくれる」と、認識を新たにすることができた。

今、もう一度、市場のラケバを観察してみると、それぞれに多機能ではあるけれど、みんな同じような形……、「背中にリュック型で背負うことができ、その姿を横から見ると、まるでカタツムリ」となっているではないか。

つまらない……。じつにつまらない!あれとはまるで違うラケバがなぜできないのか? 各メーカーとも、ラケバのことなんか、そんなに真剣に考えていないからだ。問い質せば、「考えてますよ!」と言うのだが、まったく新しいものをゼロから生み出すというのはいへんな作業であり、とても片手間でできない仕事。ほとんどのメーカーでは、バッグ専門開発担当はなく、シューズやウェアと兼任で行なっているから、どうしても持ち込みに頼ったり、下請け業者に任せてしまう。こんな状況では、オリジナルリティが誕生しようはずもない。

製作。パートナーにヨネックス

今回、我々がパートナーとしてお願いしたのは、「ヨネックス」。知る限り、バッグ専門の開発担当がいるメーカーはここだけだろう。「自分で生み出す」ということを知っているスタッフは、我々の心強い味方となったのである。



これまででない形!

「大人のための」
ラケットバッグ

すべてを使う人のための
合理的セッティングに

大人のためのシンプルスタイル

「あれっていったい何が入っているの?」と思わせるシンプルな外觀。たとえスーツ姿でも普通の顔で持ち運ぶことができるため、さまざまなシーンで活躍させることができる。ちょっとラケットバッグには見えないところが持ち味!

CHECK POINT

1

素材と縫製をハイクオリティに

CHECK POINT

2

大人が持つにふさわしい……をコンセプトにしているため、使用する素材や縫製にはとくに気を遣い、製作をバッグ品質の高さに信頼をおける【ヨネックス】に依頼。バッグ製作専門スタッフたちと何度も何度もミーティングを重ね、通常生産品とは違う1ランクも2ランクも上のクオリティを実現した



たとえ全体重量が重くなっても絶対に妥協したくなかった「生地質感」。堅牢な1680デニールというポリエステル糸を使い、デザインアクセントとして赤のステッチを取り入れた。これは中村氏のアイデアだった

「2Lペットボトル用保冷ポケットが欲しい」という読者アンケートが非常に多かったが、ペットボトルは運搬せず、おもに現地調達＆消費なのだ。ならば、ポケットではなく、独立型ボトルホルダーが合理的ということで標準装備とした



J.LTD™
DIRECTION



メインルーム

ついに完成!
TJオリジナルラケットバッグ
その全貌が
ここに!
限定200本
販売開始!



CHECK POINT

3

1DAY 必要十分収納力
ラケットルーム メインルーム トップルーム

基本的に「1日のテニスライフ」に必要な収納力。ラケットルームには2本を斜めに収納し、背中面に背負うことになる。いちばん大きいのが衣類やシューズを収納するメインルーム。かなりの収納力があるが、入れすぎると重くなってしまいますので要注意。さらにバッグを立てた状態で使い勝手がよく、濡れものの分納にも便利な、マルチユースのトップルームという3ルーム構成

ラケットルーム



トップルーム



CHECK POINT

4

両手が完全フリーになる自立型

このラケットバッグ最大の特徴のひとつである「完全自立型」を実現。縦にしたまま自立するラケットバッグは、駅のホームで待っているときなど、両手を完全にフリーにすることができ、自由度が増してとても便利だ。この便利さは「使ってみて初めてわかる」だろう

J.LTD™
DIRECTION

追究し続けた「使用合理性」

ヨネックスのバッグ専任スタッフである黒田優子さん・山田歩未さんとともに考え続けたのは、「使用するうえで合理的であること」だった。

各収納ルームは収納するものと量に合った大きさ、形状、位置に。ポケットは、外部からのアクセス(出し入れ)しやすさを重視。左右どちらでも同じように肩掛けできるようなシールドストラップの左右切り替え設計。

こうした合理性に関しては、さすがプロである黒田&山田コンビが、さまざまなデータを持っていた。逆に我々は、あらゆることを、既存の考え方にとらわれず、これまでの常識に反したことも発言した。このやりとりが、新しいラケットを生み出す原動力となった。

プラスαの機能を創出

とはいうものの、結果的に「今までとさほど違わない」と見えてしまうのでは面白くない。だから、明らかに違う……これまでのラケットにはなかった機能を加えなければならぬ。

独立携帯型2Lホルダーもそうだし、バッグの外部に傘をホルダーできる機能も付け加えた。これらすべてが、「読者||使用者からの声」によって実現した機能なのである。

「面倒」から「面白」への変化

当初、ヨネックスの黒田&山田コンビにとって、この企画は「厄介者」だったはずだ。通常業務の他に持ち込まれた面倒ことは、さっさと片付けてしまいたい雰囲気、我々はヒンヒシと感じていた。ところが、こちらが提案した「無茶な要求」にも一理あると考えてくれたためか、しだいに面白がるようになってくれたように感じた。外部の方を招いての座談会の後、とくにその変化が大きかったように思う。これがいい結果を引き出した。



CHECK POINT

5

ポケット満載 多機能バッグ

バッグの外からアクセスできるポケットを大小あわせて6個装備。トッブルームのフラップには定期入れや小物を入れるスリットポケット。その下にはA4サイズの雑誌が入るサイズのポケットと、さらに文庫本や新書などが入るポケット。ラケットルーム開口部の反対側には、ボールが6個は十分に入るポケットが。さらに、肩に掛けた状態で、右腰&左腰のあたりにあってアクセスしやすい、携帯や鍵を入れるのにちょうどいい小型隠しポケットも装備



A4 ポケット



ボールポケット

小型隠しポケット



外部 傘ホルダー



小型隠しポケット

スマートな肩掛け姿

CHECK POINT

6



現在のラケットバッグの主流スタイルは「両肩に背負えるタイプ」。たしかに楽なのだが、あまりスマートな姿とはいえない面がある。そこであえて1ショルダー型をチョイス。片方の肩に掛けてもいいし、安定感の高い斜め掛けスタイルも可能だ。左右どちらでもフィットする左右チェンジ機能も搭載。成城「コートキーパー」の中村正弘氏も「この多機能なできればと高級感ある質感ならば、たとえ2万円以上しても十分な価値がありますね」と高く評価してくれている

「やっぱりこの目で見たい!」という方のために、関東は【アートスポーツ渋谷店】、関西は【神戸フィールド】に、完成サンプルを展示してもらえることとなった。ぜひ他メーカーのラケバとの高級感の違いをご自分の目で確かめてほしい

要望とコストを
天秤にかける苦悩の連続

企画当初は、なにも考えずにガンガン無茶なアイデアをぶつけていた我々も、第3試作の検討からは「コスト」に悩まされ始めた。それまで「これでいい」と合意していたことも、「ここまでは安く作れるが、それをやると一気にコストが跳ね上がる」ということがいくつもあった。

「我慢」と「交渉」の連続だった。結果的に諦めざるを得ない要素もあったが、さまざまな工夫や、ヨネックス側の好意によって実現したことが多かったのだ。

最後まで「賭け」だった
「自立機能」

我々編集部最初の企画には「自立すること」が謳われていた。だが、他の機能を煮詰めていくと、「自立機能」のプライオリティは、しだいに低くなっていったが、座談会で「前作の自立機能がとても便利だ!」という意見が出てから、ふたたび真剣に対処し、全体形状もそのために大きく変化した。

さて、「最終」と決めていた第3試作ができあがってきた。が……、立たない。そのときの「工場側は「最初から立たせるなんて無理だと思ってた」ということなので、それは諦めてください」といったヨネックス側のコメントには、開いた口が塞がらなかった。

「ダメ! 絶対に立たせる!」と、強く協力を求めた。そりゃそうでしょ。「最初から無理だと思ってた」なんて、ハイそうですか? わけにはいかない。立たない原因は、メインルームの下部が潰れることだった。「それを防ぐには、底部にとても硬い素材を入れるしかない」と言われるが、コストも増すし、全体の質感に対してかなりの違和感があるため、別の方法を探ることにしたのだった。



ついに完成! TJオリジナルラケットバッグ その全貌がここに!

限定200本
販売開始!



独立型ボトルホルダー

CHECK POINT

7

2Lボトル保冷ホルダー付属

独立型2Lペットボトルは、内側を保冷用素材で作成、小さな保冷剤ポケットを2つ装備。クラブへは空のホルダーを持参し、近くのコンビニ等で飲み物を買って、この「独立型ボトルホルダー」に収納。コートサイドへは、これとラケット&ボール、タオルだけを持っていけばよく、重いラケットバッグをかっついていく必要はない。希望の方には、ワンタッチで開閉できて清潔に給水できる【THERMOS ペットボトルキャップ】を¥1,050(税込み)でオプション販売。

*注意:【THERMOS ペットボトルキャップ】は本来500mlペットボトル用に作られており、キャップ部分を持って全体を持ち上げると、2Lボトルの重さではねじ込み部が破損する危険があるので、かならずボトル本体を持ち上げてください

TJオリジナルラケットバッグ [J.LTD DIRECTION]

¥18,900(税込み)



オプション販売:

【THERMOS ペットボトルキャップ】 ¥1,050(税込み)

申し込み要領

ハガキまたは封書、あるいはEメールで、TJ編集部あてにお申し込みください。

〒160-0007 東京都新宿区荒木町20
スキージャーナル株式会社
テニスジャーナル編集部 ラケットバッグ頒布係
Eメールアドレス
tennisjournal@skijournal.co.jp

必須記入項目

1. 購入希望品名(バッグ本体のみ or バッグ&キャップ) 2. 「氏名」 3. 「年齢」 4. 「住所」 5. 「連絡のつきやすい電話番号」 6. Eメールアドレス(お持ちの方)

お申し込みいただいた方には、「受付確認」のためのハガキを送らせていただきます。これに記載されている銀行口座に指定額をお振り込みいただいた時点をもって「申し込み完了」といたします。受注後の製造となるため、お届けできるのは、8月末頃となる見込みです。どうか、大人のプレイヤーのために作られたラケットバッグの到着をしばしお待ちください。



J.LTD™ DIRECTION

ペットボトルキャップ



CHECK POINT

8



潰れる分を見込んで膨らませた

ああだこうだと議論のあげく、「潰れて立たないなら、潰れる分を見込んで、底部をせり出させ、わざと潰れ分を作ることで、立たないだろうか?」と考えた。問題は「どれくらいせり出させるか?」だが、これは目分量。成否は結果待ちというところで、ついに予定していた第4試作を作ることになるが、そこで失敗したら諦めなければならなかった。ドキドキしながら待った最終試作の仕上げり……。結果は「大成功」。この段階で、全体シェイプやベルト幅の微調整も行なえたため、ほっと胸を撫で下ろした最終試作の仕上げりだった。

「独立型ボトルホルダー」の理由

読者アンケートで多かった「2Lペットボトル収納用ポケットが欲しい」という要望だが、よく考えれば、ペットボトルは、「現地調達&消費」→「ボトル廃棄」して手ぶらで帰ってくるわけだから、ラケバで運ぶことは考えなくていいはずだ。だから思い切って、独立型携帯ボトルホルダーにした。このほうがコートへの持ち運びも便利かつ合理的。さらにオプションとして、ワンタッチ開閉できて簡単に清潔さを保てる「サーモス」のペットボトルキャップも選べるようにした。

「ラケバとわからせない」
新スタイル

最大の特徴は、「ラケバとわからせない形状」だ。他のラケバが「ラケットが入ってます!」とわかりやすいのとまったく逆。スーツ姿にだって不自然じゃない。購入のチャンスはこの1回限り! 「やっぱりこの目で見たい!」という方のために、関東は「アイトスポーツ渋谷店」、関西は「神戸フィールド」に、完成サンプルを展示してもらえらることになった。ぜひ他メーカーのラケバとの高級感の違いを、ご自分の目で確かめてほしい。